



拝殿の向拝に見られる龍の彫刻

足を延ばして ②

龍の彫刻が見事な「神崎神社」 辰年の今年は一歩おのぎわい

神崎(かんざき)神社(東伯郡琴浦町赤崎2-10)は、室町時代末期の創建とされる古社。今年には特に多くの観光客でにぎわっていると聞き、青谷

上寺地遺跡から35kmほど西へ車を走らせ訪れました。拝殿前で琴浦町観光協会の菅原浩一さんと落ち合せて話を伺った。日本一長いとされる16mの龍の彫刻が皆お目当てとのこと。彫刻は拝殿の向拝(社殿の階段上に張り出した屋根)にあり、天井を仰ぐと躍動感たっぷりの龍が参拝者にいらみをかかせています。「よく見ると龍が玉を握っているんですよ。」「幸せの玉」と呼ばれ、この玉の真下で幸せを願うと利益が期待できるんです」と、菅原さん。足元には「玉珠の真下」との表示があるので、参拝時に活用を。今年は一歩おのぎわい



柱の隅々に多彩な彫刻が施された本殿

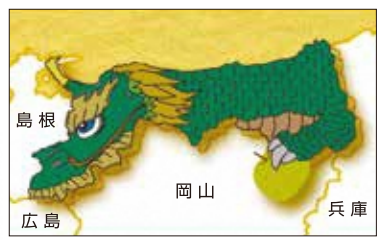
ちようど辰年。名古屋から訪れるならドラゴンスの優勝も併せて祈願しませんか。神崎神社では、他にも意匠を凝らした彫刻がそこかしこで見られます。拝殿の奥にある本殿には、牛や馬、鶴などの生き物をはじめ、菊や牡丹といった植物、さらに鳳凰や龍、獺(はく)など、花鳥風月の精緻(せいせい)な彫刻が鎮座。その(せいせい)は、あくまでも荘厳です。

【アクセス】
●名古屋西IC→(東名阪)→亀山JCT→(名神・新名神→中国道)→佐用JCT→(鳥取自動車道→鳥取西道路→山陰道)→琴浦船上山ICから約3km <約380km>
●JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR倉吉からバス <約5時間30分>

今年「とっとリュウ県」!

鳥取県の形が龍に似ていることから、辰年の今年「とっとリュウ県」を名乗っている同県。龍にまつわる県内のスポットを巡り、デジタルスタンプを集めると、抽選で豪華賞品が当たるキャンペーンを3月31日(日)まで実施中です。

鳥取県の形は龍にそっくり! 旅行券や特産品が当たる周遊キャンペーンを実施中



詳細はコチラ

ショッパー Shopper

春の鳥取で、いにしえのロマンにふれる

～新オープンの弥生時代の史跡公園から鳥取砂丘まで～

名古屋から鳥取へ 2024年春の話題先取り号

北に日本海、南に中国山地が広がる鳥取県は、大自然の織りなす絶景や山海の幸が目ざされがちですが、歴史的に重要なスポットも数多くあります。例えば、各地から海を介してもたらされた弥生時代の品々が出土する遺跡。ガイダンス施設を併設した史跡公園がオープンする集落遺跡もあり、この春は古代ロマンに思いをはせてみるのも良さそうです。



国内有数の弥生時代遺跡

鳥取県の東部、日本海に程近い鳥取市青谷(あおや)町に、約2000年前に存在していた港湾集落「青谷上寺地(かみじち)遺跡」があります。出土品の数は、重要文化財指定だけでも1300以上。中でも、脳が残っていた弥生人の頭がい骨は、DNA分析の結果などを基に顔が復元され、そっくりさんを募集したことも話題となりました。

同遺跡は山陰自動車道の建設時に発見され、集落の周りを囲う溝や貝塚など集落遺構(構造物の痕跡)の一部が見つかった他、木・骨角・鉄製品などの遺物が大量に出土。その多彩さから「弥生の地下博物館」とも呼ばれています。

そんな弥生時代遺跡の整備が進み、3月24日(日)に開園するの、青谷かみじち史跡公園(鳥取市青谷町吉川17)です。弥生時代の自然景観を再現した遺跡南側に湿地や田畑が広が



1.出土品の数々。人物は復元された弥生人・青谷上寺朗。2.同公園に併設のガイダンス棟内。3.コーヒー&カレー五島(鳥取市青谷町)の「とっとりジビエのキーマカレー」(サラダ付き1300円)は弥生人をイメージして古代米を使用。4.鳥取砂丘。5.砂丘前にあるトットプリン(同市福部町)の「砂プリン」(480円)。粉末状のカラメルは砂をイメージ

鳥取砂丘にも古代人!

鳥取砂丘といえば山陰を代表する景勝地ですが、悠久の時を経て形成されたこの場所もまた、古代人の舞台だったようです。

砂丘の内陸部では、縄文時代から古墳時代までの遺物が出土、湾曲した急斜面に囲まれたくぼ地「追後(おいご)スリバチ」などからは、弥生時代以降の土器

り、教科書で習った高床式倉庫も。「弥生人になった気分」で散策してください」とは、同公園準備室の濱田竜彦さんです。

公園脇には展示施設もオープンします。当時の生活を出土品とともに紹介するガイダンス棟と、貴重な出土品を収蔵・展示する重要文化財棟。濱田さんは完成間近の建物に目をやりながら、「弥生時代から人の活動範囲が広がり、交流も活発になりました。愛知県には朝日遺跡がありますが、似ているようで地域差が表れているので比較してみたいですね」と話します。入園無料。



【アクセス】
●青谷かみじち史跡公園
●鳥取砂丘/鳥取砂丘 砂の美術館

足を延ばして ① 巨大砂像が必見の「鳥取砂丘 砂の美術館」 4月からは「フランス」がテーマ



鳥取砂丘に足を運んだ際に併せて行きたいのが、「鳥取砂丘 砂の美術館」(鳥取市福部町湯山2083-17)です。ここは世界で唯一、砂像展示を専門にしている屋内美術館。「砂で世界旅行」をコンセプトに、世界各国の文化や歴史を表現した砂像を見ることが出来ます。4月19日(金)からは待望の新展示「フランス編」がスタート。現在各国の砂像アーティストが鳥取に集い、フランスをテーマにした砂像を制作中です。毎回、砂像は小さくても高さ3m以上はあるので、今回も



「エジプト編」で展示されていた砂像

館内(写真は1月まで行われていた「エジプト編」) 巨大砂像に期待したいところ。間近で見ると、吹き抜けの2階から見下ろすもよし。圧巻の迫力を現地で堪能しましょう。また、制作段階で凝固剤は使わず、材料は砂と水だけ。砂は10年以上前の「古砂丘の砂」ということも付け加えておきます。会期は2025年1月5日(日)まで。入館料800円、小中高生400円。

問い合わせ

鳥取県名古屋代表部 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル5階
電話:052-262-5411 <https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

鳥取県の観光情報は
こちらから▶

